

# APIR Commentary

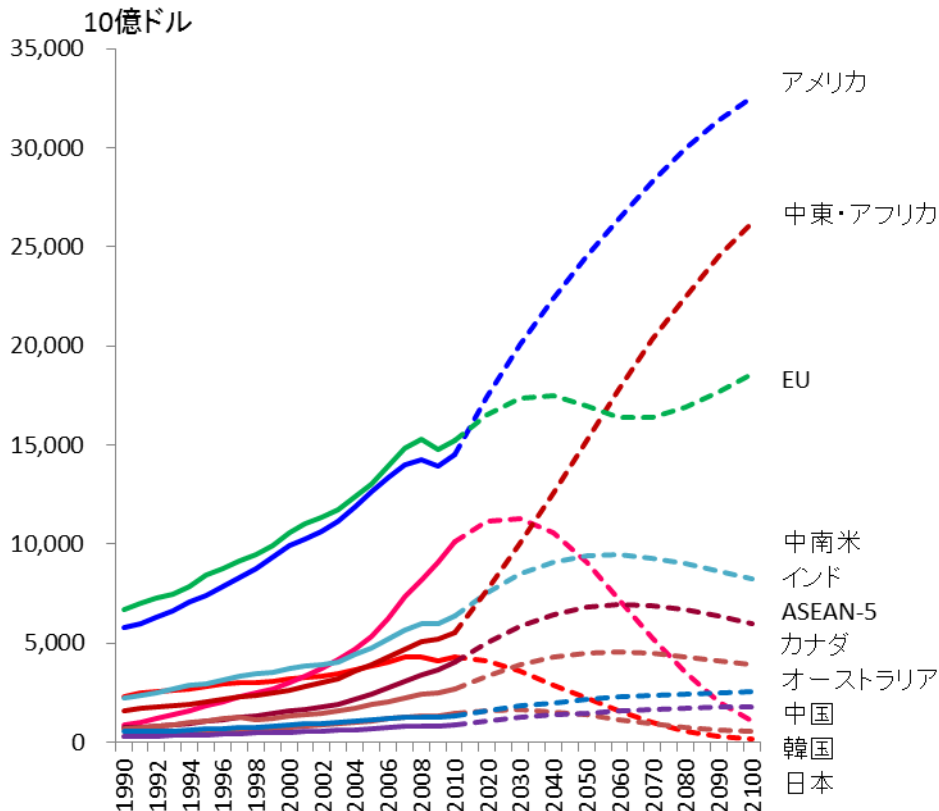
No.1

## 21 世紀はアジアの世紀か

アジア諸国の経済発展が著しい。IMF のデータによれば、2000 年から 2010 年までの単純平均で、中国の成長率は 10.3%、インド・インドネシアを含むアジア途上国 27 カ国の平均成長率は 8.35%、ASEAN5 カ国で 5.14%、香港・韓国・シンガポール・台湾のアジア新興工業国は 4.57%で、日本の高度成長時代を彷彿とさせる。アジア経済は世界の成長センターであり、日本にとってもアジアは貿易相手地域としては世界最大、日本からの企業進出も相次いでいる。

しかし、少し立ち止まって、超長期の展望を持つことも必要だろう。図は APIR で行った世界経済の 2100 年までの超長期予測である。図では国と地域が混在しているが、2100 年には、アメリカ、中東とアフリカ、EU の躍進が著しく、アジアでは、中国経済も 2020 年前後にピークを打ち、日本も韓国も ASEAN もインドも急速にその地位を低下させていく(予測の根拠については、APIR 分析レポート NO.9「世界経済の超長期展望」参照)。

この予測は、過去 100 年程度の期間の人口と実質 GDP を基に行われたものであるため、人口減少が予想される国や地域の実質 GDP は低く出ている。しかし、今から 80~90 年後の将来を見通すならば、21 世紀はアジアの世紀ではなく、大西洋の世紀とも見えてくる。特に日本は、急速に実質 GDP を低下させて、世界経済の中での存在感を失っていく。企業人も政治家も歴史的な大転換を考えていかなければならない。



<研究統括 林 敏彦, contact@apir.or.jp, 06-6441-5750>

・本レポートは、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
 ・本レポートは信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された内容は、今後予告なしに変更されることがあります。